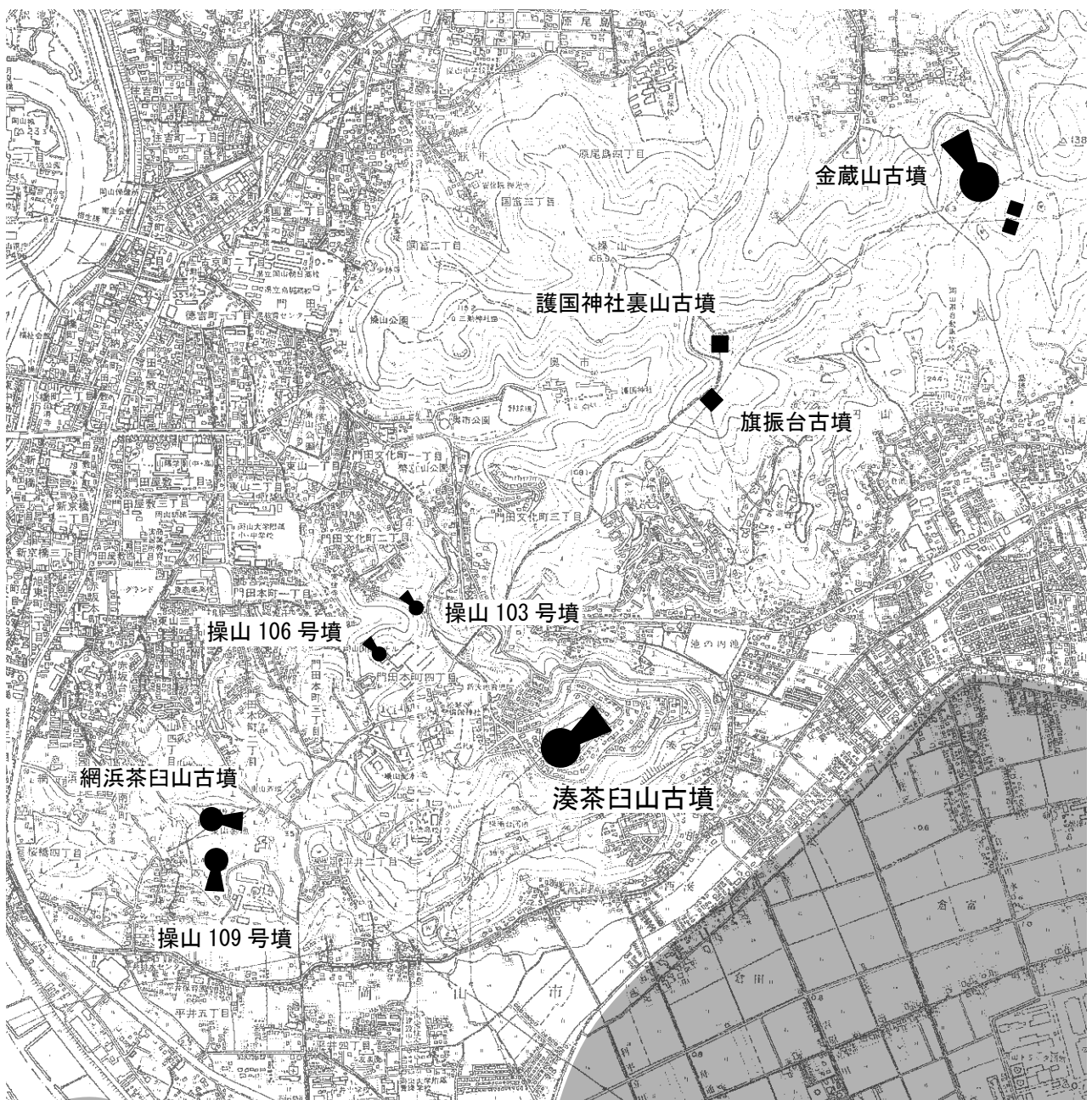


湊茶臼山古墳

— 第 4 次調査現地説明会資料 —

湊茶臼山古墳と周辺

湊茶臼山古墳は操山丘陵南部の山頂に立地する大型の前方後円墳です。これまでの調査で墳長約 120m 以上、後円部三段、前方部二段築成で、出土した埴輪の特徴から五世紀初頭頃に造られたことがわかりました。周辺には古墳時代初頭の網浜茶臼山古墳（墳長 92 m）、操山 109 号墳（墳長 45 m）、古墳時代前期末頃の金蔵山古墳（墳長 165 m）をはじめ、操山丘陵全体で 200 基を超える古墳が存在しています。



第 1 図 湊茶臼山古墳と周辺の主な前期古墳 (1/20, 000)

第4次調査の概要

第4次調査では前方部を中心に10カ所の発掘区を設けました。

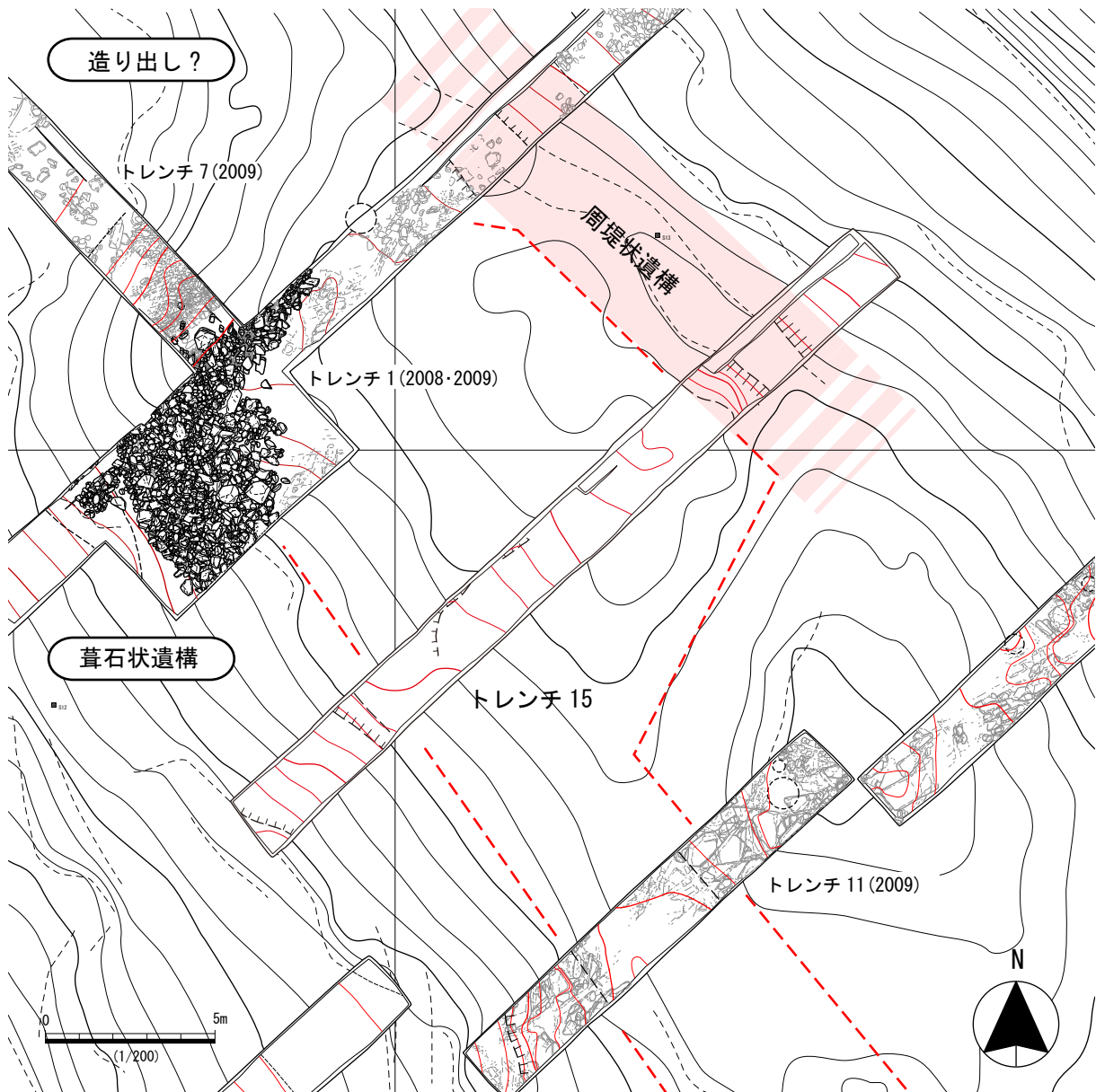
1) 前方部墳頂

湊茶臼山古墳の前方部墳頂は、平坦面が非常に広く、後円部が三段築成なのに対し二段しかありません。そのため、上面が大きく改変されていないか確かめるために調査しました。

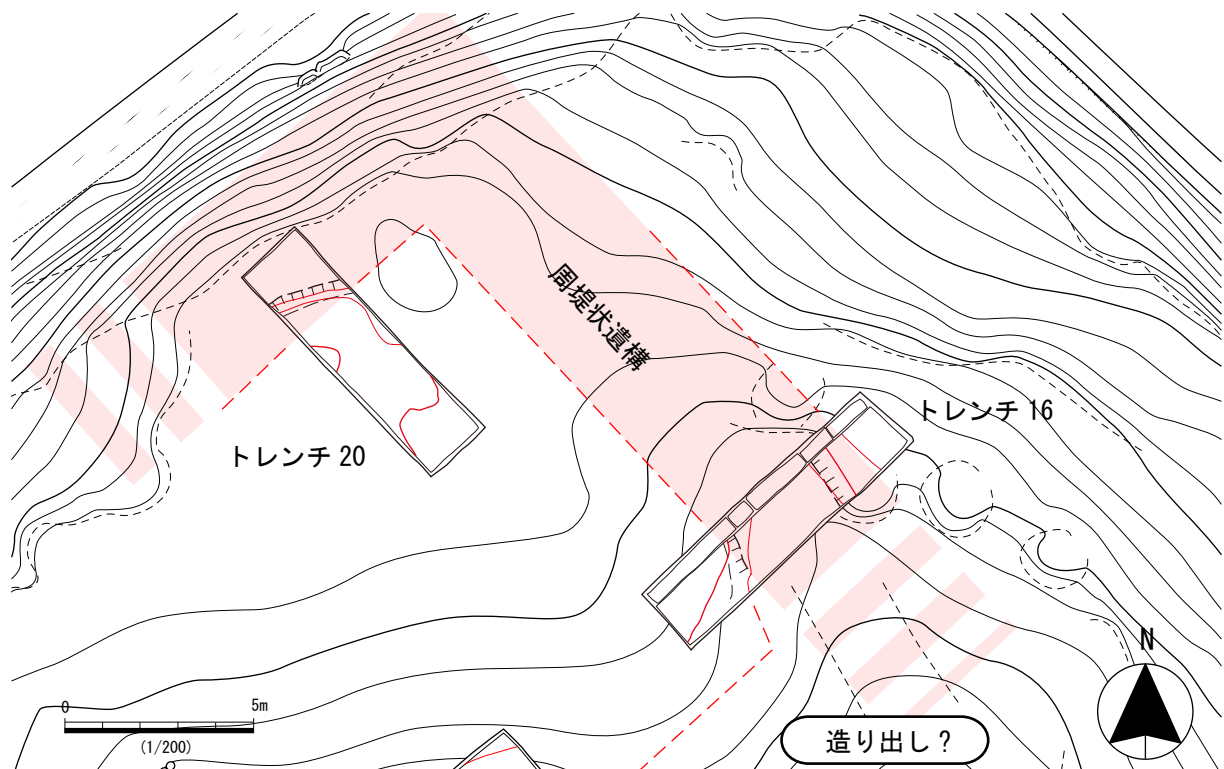
調査ではどのトレンチもほぼ平坦で、段などがあつたような痕跡はありません。攪乱坑や高い部分を削って整地したような土層、耕作土状の土層もあり、上面がある程度改変されている様子は観察できます。しかし、現状でも前方部の先にむかってだんだん高くなる古墳本来の形が残っており、改変はさほど大きなものではないようです。この広い平坦面は湊茶臼山古墳の墳形の特徴のひとつとみた方がよいようです。

2) 前方部前端墳丘外・前方部北東側墳丘外

前方部前端の墳丘外には造り出し状の高まりや池のようなくぼみ、広い平坦面などがあり、これまでに葺石状遺構などを検出しています。今回は葺石の続きやくぼみの状況、北側の平坦面の様子などを確認するた



第2図 前方部前端墳丘外の様子 (1/200)



第3図 前方部北東側墳丘外の様子 (1/200)

め調査しました。

調査では土手のように地山を削りだした遺構を確認しました。この遺構は、途中造り出しのような高まりがあるため確認できませんが、古墳の主軸に直行してほぼ一直線になっているようで、さらにその北端では西向きに曲がっているようです。このことから、土手状の高まりは古墳の周堤にあたる施設である可能性が高いと考えられます。湊茶臼山古墳は山頂に立地しており、平野の古墳のように周囲を濠で囲むことは地形的にできません。ですが、一部であれこうした濠の区画を造ろうとしているとみられ、非常に興味深い事例といえます。

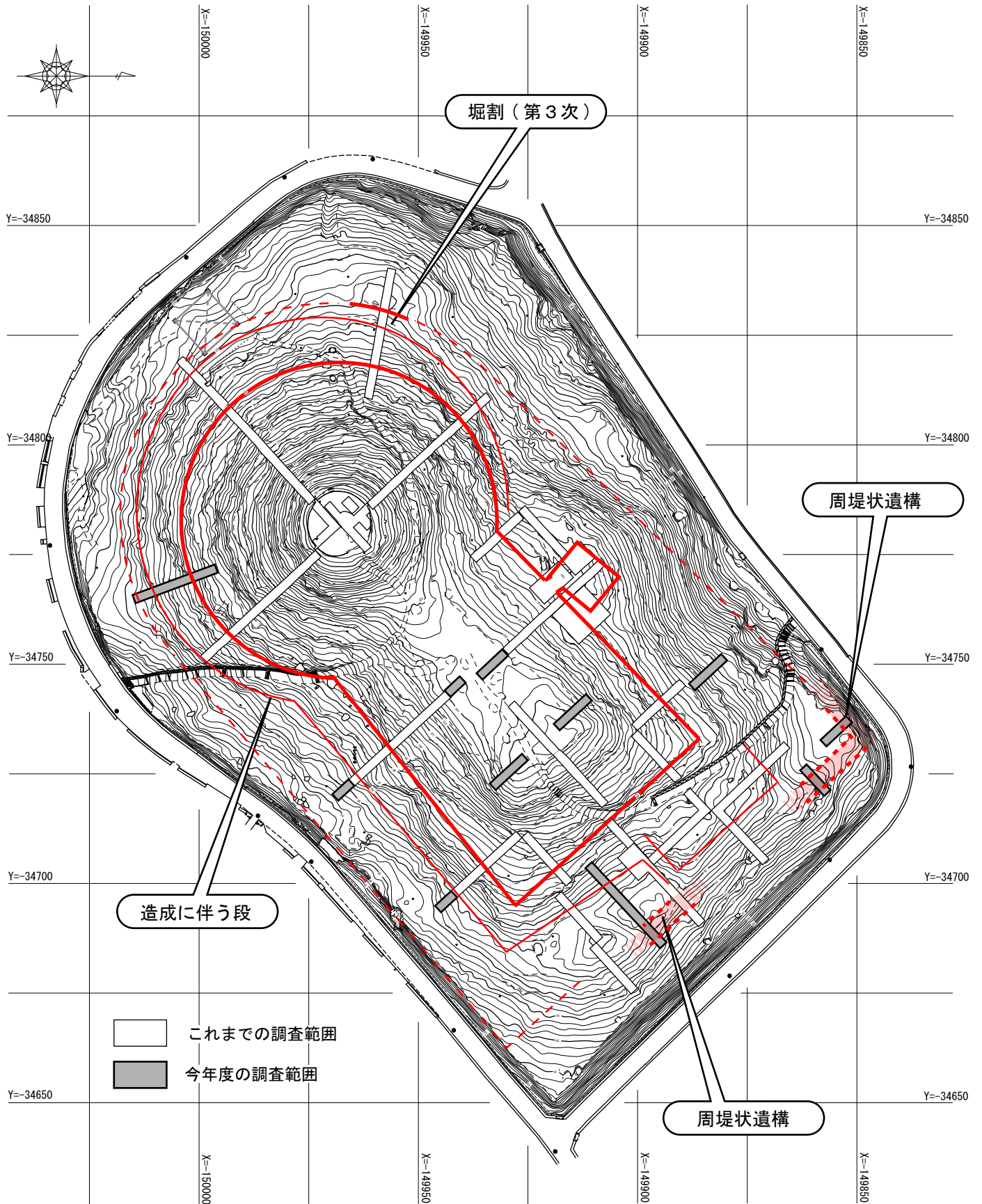
3) その他の調査区

そのほか前方部周辺を中心に調査を行っています。これまでの調査で後円部の周囲に造成・整地に伴う段がめぐることがわかっていますが、これが前方部南側に続いていることがわかりました。一方、北側の斜面ではこれがはっきりしません。これはおそらく、南側の地形が比較的緩やかな斜面なのに対し、北側は谷が入り込む急な斜面となっているためと思われます。

まとめ

湊茶臼山古墳の調査も今年で終了です。最後にこれまでの成果をまとめたいと思います。

- 墳丘規模 墳長約 125 m (周辺の段を含めると約 150 m)
後円部径約 72 m、同高さ約 11 m、前方部 (前端) 幅約 60 m、同高さ約 5 m
- 形態構造 後円部三段、前方部二段築成。葺石なし。前方部北側面に方形壇 (島状遺構)
前方部前端側墳丘外に葺石状遺構・方形造出状の地形・周堤状遺構
- 埋葬施設 第一主体：木棺直葬 (粘土被覆)、4.5 × 2 m
第二主体：粘土槨、7.5 × 2 m
- 出土遺物 埴輪類 (円筒・朝顔・家・盾・草摺)、土師器、陶質土器?、鉄鏃 (第一主体)
- 時期等 四世紀末～五世紀初頭



第4図 湊茶臼山古墳のようす (1/1,200)

4年間の調査で古墳の構造などを解明する事ができました。島状遺構や周堤の存在、朝鮮半島産の土器とみられる遺物の出土など注目される成果もありました。このほか、中心的な埋葬がない可能性や古墳自体が未完成である可能性なども指摘されており、様々な状況や研究課題を提示しました。